



平成31年4月1日 新採用者・転入者オリエンテーションにて

目 次

2019年度を迎えて	2	院内倫理講演会を聴講して	6
新任のご挨拶	3	平成30年度QC活動発表会の開催について	6
医局紹介 心臓リハビリテーション	4	平成30年度 成人式を開催して	8
第17回 大分県神経難病地域支援 ネットワーク研修会を開催して	5	地域医療連携室だより	9
		職場紹介	10

理 念 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

基本方針 1. 患者中心の医療 2. 患者の権利と尊厳を守る 3. 政策医療の推進 4. 地域医療への貢献
 5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進 7. 経営基盤の確立

患者さまの権利 1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利
 3. 自分で医療の内容を決定する権利 4. プライバシーを保護される権利 5. カルテ開示を受ける権利
 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利

2019年度を迎えて



院長
後藤 一也

西別府病院の広報誌をご覧ください誠に有難うございます。平素は大変お世話になっておりますこと感謝申し上げます。2019年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

病院周囲の桜を眺めては、「年々歳々花相似たり 歳々年々人同じからず」を強く意識する時期に、退職、転出する職員を送り、新採用、転任の職員を迎えて新年度が始動しました。退職者は常勤・非常勤をあわせて32名、転出者は17名の方々です。皆様の病院への貢献に対して感謝するとともに、今後の益々のご活躍をお祈りします。また、転入者は18名、新採用者は32名にのぼります。他施設での経験や若い力などが病院の更なる活性化につながると期待しています。

病院の状況ですが、2017年度の赤字転落を踏まえて、2018年度は1. 病院機能の向上、地域・在宅医療への貢献、2. 経営基盤の確立という病院目標をもとに、職員ひとり一人が業務に努め、求められる医療サービスを提供するとともに、黒字化を達成することができました。

当院は政策医療とくに障害者医療を中心とした医療サービスを提供しておりますが、社会や医療環境が大きく変化する中、当院に求められております医療サービスについても、その質や内容も大きく変わってきています。長年培ってきた医療技術等を土台に、地域連携をさらに進め、求められている病院機能の提供に努めていきます。一方で、病院運営に要する費用は右肩上がりで増大する中、一層の経営基盤の確立へ向けての対応が求められています。

2019年度の病院目標は、以上のことを踏まえたうえで、働き方改革への対応を前提に、「働きやすい環境づくりに努めて、1. 経営基盤を確立し、2. 専門性の向上、チーム医療を推進し、地域・在宅医療に貢献する。」としました。また、病院目標から派生する8項目の重点目標を掲げ、病院理念の実現や基本方針の実行に努めていく所存です。病院目標に沿って職員一同力を合わせて、患者さんはもとより地域や皆様方にとってより良い病院となることを目指します。また、職員ひとり一人にとっても自らの願いが叶うような病院になりたいと考えております。皆様におかれましては引き続きご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



新任のご挨拶



事務部長

馬 渡 永 年

4月1日付で宮崎病院から赴任して参りました事務部長の馬渡（マワタリ）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。以前に（ちょうど2000年問題の頃）国立別府病院、現在の別府医療センターに3年間勤務させていただき、約20年ぶりの別府勤務となりました。その当時は、係長として昇任したばかりで、初めての単身赴任ということもあり、不安でいっぱいだったように思いますが、キレイな桜が咲き誇る中での赴任は、今も昔も変わりなく安心感さえ覚えます。

さて、5月1日からの新元号が「令和」と発表され、平成31年度も令和元年度となり、新たな時代が始まります。国立病院機構では「変革期」と位置づけた第四期中期計画期間の初年度を迎え、また、西別府病院も新メンバーを加えての船出となります。個人のスキルアップは基より、組織の活性化と安定した経営基盤の確立を図るべく、西別府病院の発展のために、経営面・医療面の双方から貢献できるよう、微力ながら頑張っていきたいと思っております。



看護部長

中 尾 とよみ

4月1日付けで、熊本医療センターから昇任で参りました看護部長の中尾とよみと申します。別府は地熱で温かい場所と聞いておりましたが、一けた台の気温が続く寒さに驚きましたが、満開の桜と病院から望む別府湾がとても印象的でした。

前任の熊本医療センター勤務時に、熊本地震を経験し、病院の危機管理について考えさせられましたので、西別府病院勤務と聞き、人工呼吸器の多い病院であることへの緊張感を感じました。また、大分県のセーフティネット分野の医療を担う医療機関としての役割等についても把握しながら、地域の中での当院の役割が果たせるよう、看護部門も力をあわせて貢献できるよう努めてまいりたいと思っております。

私のスタートは旧再春荘病院で、そこでの重心や筋ジス病棟での患者様との関わりが看護観にも影響を受けました。その頃の状況とはまた変わっていると思いますので、現状を把握しながら「不易流行」変わったもの、変わらないものを見つめ、看護の本質を大事にした看護の提供ができますように看護師の育成に努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



神経内科医師

後 藤 恵

4月より、西別府病院の神経内科で勤務しております、後藤恵です。

私は自治医科大学を卒業後、県内の神経内科で専門研修を受けたほか、一般内科・総合診療医として県内各地で僻地医療、地域医療に関わってきました。

今年度より、大分大学医学部神経内科学講座に所属し、最初の勤務地として西別府病院に参りました。

以前より、西別府病院の神経内科は筋ジストロフィーやALSをはじめとする神経疾患の療養、リハビリテーションや治療において、特に重要な役割を果たしている場所だと考えていました。今回勤務する機会をいただき大変有り難く、また責任も感じております。これまでの経験を活かし、研鑽に努め、患者様に寄り添った医療を提供できればと思います。よろしくお願いいたします。

医局
紹介

心臓リハビリテーション

循環器科 天田 浩 司

西別府病院の心臓リハビリテーション（心リハ）についてご紹介いたします。

平成19年（2007年）7月に「心大血管リハビリテーション料」の施設基準に準じて1階のリハビリ室で開設しました。6年後の平成25年（2013年）7月には休棟していた中3病棟を改装して頂き、心リハ室（運動療法室）へ移動して現在に至るまで継続しています。

入院中は月曜日から金曜日まで毎日、外来では月、水、金の週3回、心リハを行っています。患者さん全員に心電図モニターをつけてもらい、医師、理学療法士、看護師の監視下で自転車エルゴメーター、トレッドミル、歩行などの有酸素運動、低強度のレジスタンストレーニング（筋トレ）、ストレッチングなどを行っています。

心リハは運動療法を行いながら食事療法、薬物療法等について患者教育を行い、社会復帰と快適な日常生活の維持をめざすことが目的です。

「心大血管リハビリテーション料」の施設基準には多職種による定期的なカンファレンスを行うことが義務付けられています。当院では医師、理学療法士、作業療法士、看護師、薬剤師、検査技師、医療ソーシャルワーカーなどのメンバーが定期的にカンファレンスを実施しています。

心リハの適応疾患は急性心筋梗塞、狭心症、開心術後、大動脈疾患、末梢閉塞性疾患の他、一定の基準をみたした慢性心不全などです。

心リハを継続することにより、心肺機能の改善や動脈硬化の予防改善、狭心症や心不全症状の改善、自律

神経の改善などの効果が証明されています。当院は心肺運動負荷試験CPXと同時に自律神経機能検査を行っています。心リハを開始する前と心リハ施行数か月後と比較すると、心肺機能の改善に伴い、低下していた有酸素運動時の副交感神経の活性化や運動負荷時の交感神経の活性化が起ることが分かり、心臓リハビリテーション学会で発表しました。

心リハの時期は第1期の急性期（1～2週間）、第2期の回復期（2～3か月）、第3期の維持期（生涯を通じた期間）に分けられます。長期間に渡る運動療法の予後改善効果は大規模な臨床試験で証明されています。当院では10年以上外来で心リハを続けられている患者さんもいらっしゃいます。

心リハを発展させるためには院内での各職種間の協体制と共に、病病（病院と病院）連携、病診（病院とクリニック）連携による相互協力と情報交換が必要です。

パンフレットを作製しておりますので、ご協力いただける方はご連絡ください。

今後も心疾患患者さんのより良い生活レベルをめざし、入院、外来で心リハを続けていきたいと考えています。皆さまのご理解、ご協力をお願いします。

担当医師 天田 浩司（循環器科）

福岡大学卒

日本内科学会認定医 日本循環器学会専門医
心臓リハビリテーション認定医



H25年に開設したリハビリ室
（3階からの眺めが最高です）



毎月行われる多職種によるカンファレンス
（患者さん一人一人について話し合いが行われます）



心肺運動負荷試験CPX



有酸素運動

第17回 大分県神経難病地域支援ネットワーク 研修会を開催して

神経内科医長 島 崎 里 恵

2019年1月26日(土)、別府市のピーコンプラザにおいて第17回大分県神経難病地域支援ネットワーク研修会を開催しました。今回のメインテーマは『神経難病患者の意思決定支援』としました。スタッフ一同の強い要望により特別講演を南風病院の福永秀敏院長にお願いしました。

今期一番の寒気が来県し雪の舞う中での開催となりましたが、講師の福永先生も鹿児島より無事に到着され、大分県内より80名を超える参加者を迎えることができました。

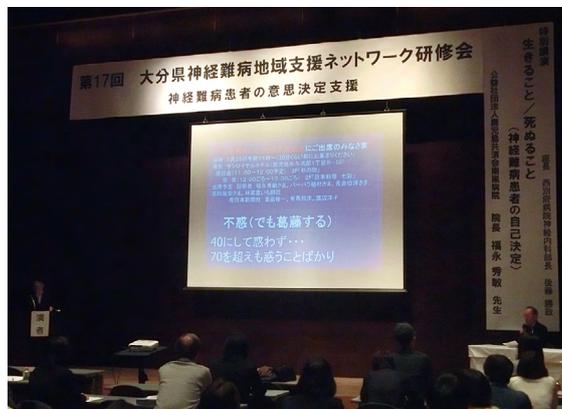
病院長の挨拶の後、後藤勝政神経内科部長の司会のもと、第一部の福永先生の特別講演が始まりました。演題は「生きること、死ぬること」と言う何とも奥深い内容で、先生の46年の長きにわたる臨床経験の中から、具体例をあげて詳しくご講演していただき、さらに現在の意思決定に関わる問題点や法律的な問題などもご講演くださいました。神経難病・筋ジストロフィーの診療は、患者さん・家族と深く長く寄り添う事ができる仕事であり、30年の時空を超えて関わりが続くというお話が大変心に響きました。

第二部は、ALS患者の意思決定・支援と言う観点から、医師・病棟看護師・訪問看護師の立場よりの発表の後、福永先生にも参加していただき全体討論を行いました。

フロアからは、質問者ご自身の体験から対応に難渋した症例についての相談が寄せられました。患者本人と家族の希望が異なる場合どう対応すべきかという、非常に難しい内容でした。基本的には患者の希望が最優先ですが、患者が家族の意向を押し量り自分の本当の気持ちを言えなかったのではないかと、現在でも苦慮されている様子が伝わってきました。また、患者への告知の現状、患者が気切を拒否した理由について、気切拒否患者に対するモルヒネの使用について、医療者に対して拒否反応を示していた患者がケアを受け入れるようになった契機は何か、等の質問もいただき、活発な討議となりました。

「これが正解」という明確な答えが得られにくい、言葉で語り尽くすことが難しい問題をメインテーマに据えたことより、どのようなディスカッションになるか少々不安がありましたが、それぞれの経験を出し合い話し合うことができ、多くの学びを共有できたと感じました。今回の研修会が参加者の方々の今後の臨床現場において、少しでもお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、講師の先生方、参加者の皆様、運営をいただいた病院スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。



院内倫理講演会を聴講して

副院長 原 政 英

2019年1月18日(金)、宮崎大学医学部医学科社会医学講座生命医療倫理学分野教授 板井孝壱郎先生をお迎えし、院内倫理講演会を開催いたしました。今回は『その人らしい「旅立ち」を支援するために』というテーマで、意思決定支援とAdvanced Care Planning (ACP) についてご講演いただきました。

宮崎大学は全国に先駆けて臨床コンサルテーションチーム活動に取り組まれており、事案総数が437件/6年間で、そのうち最も多いものが医療行為の妥当性でした。これは終末期医療における課題でもあります。終末期医療のACPにおいては、とくに本人の意思確認ができない場合に「家族等」が本人の意思を推定することになります。ここでの「家族等」は親族のみでなく親しい友人を含めたより広い範囲の人々を指すということが示されました。そして実際のACPの

プロセスでは、本人と医療・ケアチームにより繰り返し話し合いを行い、決して医療者・介護者からの押しつけをしないことを強調されました。また、患者さんに自分の視点で「同情」するのではなく、あくまでご本人の立場に立った「共感」を持つことが大切であることも指摘されました。

これらの活動を背景として、宮崎市では板井教授を中心に死期が迫った人々のエンディングノート「わたしの想いをつなぐノート」が作成されました。これは、ともすれば目を背けがちな「人の終末期」に光を当て、それぞれが自分らしい最期を迎えられるよう社会全体でサポートする刮目すべき取り組みです。いつもながら板井教授の軽妙で説得力のあるご講演に引き込まれ、あっという間の1時間でした。

平成30年度QC活動発表会の開催について

平成30年度QC委員長 事務部長 河野完治

去る3月5日(火)(晴れ時々曇りだったような)、15時から平成30年度QC活動発表会を開催しました。今年度は事務部が担当と言うことで、1年間委員長を務めさせて頂きました。QCと言う言葉は昔から聞いてはいましたが、恥ずかしながら実際は全くと言って良いほど活動経験はありませんでした。

5月に第1回委員会を開催。6月に副院長による「QCの基本と手法」講義を受け、以降毎月(延べ9回)のQC手法及び進捗確認を経て、当日に至りました。

今回は9チームからの発表となりました。「QC手法も大事ではあるが、まずは自由発想のもと、小さなことでも、また逆に発表当日までに必ずしも完結しなくても良く

PDCAを回す」をテーマに、身の回りの業務改善について取り組んでもらったことが発表数増加の原因かなと勝手に考えています。

さて内容ですが発表順で、薬剤部の在庫適正化に伴う欠品対処に関して「外来処方における医薬品在庫の適正化」、放射線ひとり活動作成実行委員会による人的・システムの解決を目指した「大型医療機器(CT)の稼働率向上」、ムダ・ムラ・ムリを減らし隊(検査科)の棚卸し定数を見直す「流動資産の低減」、環境整備グループ(看護部1)によるベッド周囲の医療機器環境を見直す「どんだけ〜!!コードが床を這う病棟」、物品見直し隊(看護部2)の病棟・中材・物品請求定数を見直し不動態在庫削減を目的とした「プロフェッ

ショナル～中材物品の流儀～」、つけ忘れ無くし隊(看護部3)による処置の適性算定「軟膏処置取り漏れナース」、西別府料理研究所所属嚥下食ヒラメタイ(栄養管理室)が患者の嚥下機能に応じた食形態の周知と改善を目指した「形態調整食における理解度の向上」、リハビリテーション科のリハ計画書作成算定率の向上の取り組みとさらなる強化をテーマに「リハビリテーション総合実施計画書の適性な運用を目指して」、無駄な費用無くし隊(事務部・療育指導室・心理療法室共同)によるタイトルそのままに「経費節減～最高需要電力(デマンド)更新阻止法並びに購入量削減への試み～」の以上9つでした。

QC委員のひとり副検査技師長の巧みな司会にびっくり?しながら、スムーズな進行が出来、また勤務時間内発表であったことから、各自持ち時間を超えると後ろ倒しになり、各職場で残って少ない人数で働いている職員へ負担をかけてはいけないということを念頭にスケジュールしたこともあり、質問時間・院長講評を含め予定時間(～16:30)より若干早い時間で終了しました。

評価結果は以下のとおり(350点満点、図参照)。

【最優秀賞】

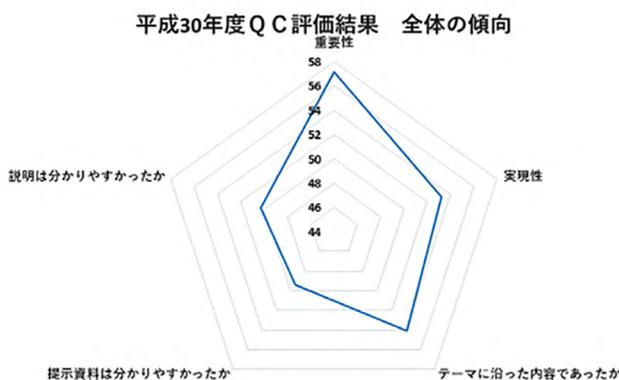
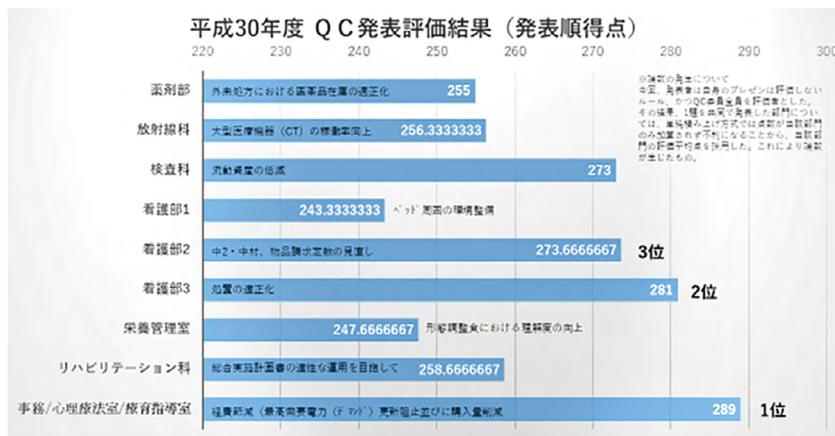
経費節減～最高需要電力(デマンド)更新阻止法並びに購入量削減への試み～

【優秀賞】(2チーム)

軟膏処置取り漏れナース
プロフェッショナル～中材物品の流儀～

各評価者とも取り組み内容の重要性を高く評価。一方、発表者が時間内に終わらせることに重きを置いたため、説明時間やスライド資料の内容のボリューム低下に繋がり当該項目の評価が低くなってしまいました。委員長として猛省しております。3月の管理診療会議で表彰・副賞授与式を行いました。

平成31年度?はこのようなことがないように、「時間的ゆとりを持った発表会にしてほしい。」旨引き継ぎました。



平成30年度 成人式を開催して

療育指導室保育士 西久保 薫利

毎年恒例となっている「成人式」。今年は、1月9日(水)に療育ホールにて開催されました。例年より少し早い日程での開催となりましたが、おごそかな雰囲気の中、式は盛大に執り行われました。

今年度は、東1病棟・東3病棟・東4病棟の利用者様各1名ずつの計3名の方が、晴れて新成人を迎えられました。

当日、会場は多くの来賓や当院幹部職員が出席し、参列者の温かい拍手に包まれながら、ご家族と一緒に新成人者3名が続けて入場されました。スーツで正装し、凛とした面持ちで入場される新成人者の姿は、これから大人として新たな生活を迎えるにあたり、希望に満ちた姿でもありました。

新成人者紹介は担当病棟の看護師より行われ、日頃の様子やこの日を迎えられるまでのエピソードが盛り込まれた紹介内容に、思わず笑みがこぼれる場面もありました。また、幼少時代からこれまで過ごされてきた数々の思い出を、1つの映像に詰め込み、大型スクリーンにてご紹介させて頂きました。スクリーンを見つめながら、顔を合わせて親子で笑い合っている様子や、ご家族が涙をぬぐう様子も見られ、会場は優しく、温かい雰囲気に包まれました。

来賓として、大分市長代行(大分市教育委員会教育部教育監)、別府市長代行(別府市教育委員会教育参事)、別府市障害福祉課長、大分県立別府支援学校石垣原校校長・副校長、重症心身症児(者)親の会「わかば会」会長、日本筋ジストロフィー協会大分県支部支部長にもご臨席いただきました。祝辞を頂戴し、新成人者やご家族は神妙な面持ちで聴かれていました。

お祝いの言葉では、友人代表として東1病棟の利用者様から心のこもったお手紙が届きました。最後には、新成人者代表挨拶も行われ、これまでの感謝の気持ちや心温まる言葉に、出席者、来賓者より、大きな拍手が聞かれました。

今年度はSMAPの「世界に一つだけの花」をお祝いの歌として選曲しました。誰もが耳にしたことのある歌でもあり、職員だけでなく、参列者の皆様も一緒に口ずさむ様子がみられ、会場全体で新成人者に歌を届けることが出来ました。

成人式は人生の大きな節目のひとつであり、大人への第一歩でもあります。この成人式が心に残る式となると共に、新成人者の皆様にとって幸多い未来への希望のひとつとなることを願っております。

今年も多くの方に支えられ、無事に成人式を終えることができました。ご多忙中にもかかわらず御臨席いただきました来賓の皆様、職員の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。そして、成人を迎えられた3名の利用者様と、ご家族の皆様にあたためて心からお慶び申し上げます。この度は成人、おめでとうございます。



地域医療連携室だより

地域医療連携係長

安 森 洋 美

平成 31 年 2 月 19 日（火）、近隣の医療機関のスタッフを対象として西別府病院第 11 回病診連携セミナーを開催いたしました。今回のセミナーのテーマは「誤嚥性肺炎について」、当院呼吸器科部長の河野医師が講義を行いました。

参加者は当院の職員も含め 31 名で、近隣の病院や訪問看護ステーションの職員の方々にご参加いただきました。

講義の内容は誤嚥性肺炎について、XP や CT 画像を用いた疾患の説明、症状と治療、顕性誤嚥と不顕性誤嚥の違い、誤嚥リスク因子や嚥下機能検査の方法と予防対策に至るまで幅広く説明がありました。

参加者の反応として、口腔ケアを行うことで肺炎発症患者の割合が激減すると聞いて、「効果の大きさに驚いた」「勉強になった」などがありました。

今年度計画した 4 回のセミナーは皆様のご協力が無事終えることができました。ありがとうございます。

今後の研修希望としてリンパ浮腫の在宅ケアや呼吸器リハビリ、体位ドレナージ、口腔ケアについて、など多くの意見をいただきました。

次年度も皆様の期待に応じられるプログラムの作成を心がけ、セミナーを通じて地域医療に貢献して参りたいと考えております。近隣の医療機関の皆様におかれましては、ご参加のほど心からお待ちしております。



職 場 紹 介

西別府病院で働くスタッフを
毎回紹介しています。
この科はどんな診察をするの？
この部署はどんな仕事なの？など
意外と知らない病院のこと
覗いてみませんか

手術・中央材料室



手術・中央材料室は、看護師6名、業務技術員1名のスタッフで、内視鏡・手術の介助、また中央材料室として物品管理を行っています。

内視鏡室では検査・処置介助だけでなく、院内で使用される内視鏡の洗浄・点検を行っており、夜間の緊急処置にも対応しています。

手術室では、整形外科は、平成28年度から30年度まで、スポーツ外傷による肩肘関節疾患を主とした関節鏡下での手術等が行われておりました。その他、外科・消化器科では気管切開術、内視鏡的胃瘻造設術、内視鏡的消化管止血術が行われており、生殖遺伝科では羊水・絨毛検査等が行われています。

手術室看護師は、多くの場合、手術や検査を受ける患者様とその時に初めて会うことになります。患者様の不安を受け止め、少しでも不安が軽減するような温かい気持ち・言葉かけで迎え入れることを心がけています。

中央材料室業務では、院内で使用される人工呼吸器関連物品、衛生医療材料の受注から発注まで一括して管理しています。患者様との直接的な関わりはありませんが、各部署で使用される物品に不備がないよう、患者様への影響が出ないよう、医療機器類の消毒・滅菌、医療材料の払い出し等、適切かつ効率的な物品管理に努めています。

(手術・中央材料室看護師長 平野 美幸)

医療機器管理室



医療機器管理室は病院内の医療機器を管理、保守点検、操作を行う部署です。現在、臨床工学技士が3名在籍しています。業務内容としては、

- ・人工呼吸器関連では人工呼吸器の保守管理や臨床における呼吸状態評価、急性期における呼吸条件の変更提案や、NPPV導入とマスクフィッティング、機器を用いた気道クリアランス療法：HI-E（排痰補助装置）、IPV（パーカッションベンチレータ）の操作を呼吸リハビリテーションの一環として理学療法士さんらと協働しています。
- ・ME機器管理として、輸液、シリンジ、経腸栄養の各ポンプや、ベッドサイドモニター、SPO₂モニター、経皮的二酸化炭素モニター、用手換気バッグの保守点検管理。
- ・人工呼吸患者さんが在宅退院される際の機器関係の手配、連絡調整。
- ・医療安全管理係長と共に病棟への安全教育、新規機器の使用説明。
- ・高圧ガス点検などの施設管理を業者、企画課と共に施行。

中でも業務の中心は常時100台前後稼働している人工呼吸器の管理業務、設定評価と気道クリアランス療法です。長期療養や在宅にも使用ができるポータブル型人工呼吸器が多いのも特徴です。人工呼吸器の稼働台数は西日本でも有数です。

専門すぎるのが災い？したのか臨床工学技士の配置は全国的に見てもまだ少ないのが現状で、更にアピールしていきたいと考えています。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(主任臨床工学技士 阿部 聖司)